

未来をつくる学校 未来につなぐ教育く蘇る離島く

神奈川県議会議員 山本哲

神奈川県議会文教常任委員会では、9月3日から5日にかけて島根県は隠岐の島諸島地で現地調査を行いました。

隠岐島前教育 魅力化プロジェクト

調査目的は①隠岐ユネスコ世界ジオパークを活

用した取組みについて(隠岐の島町) ②隠岐島前教育魅力化プロジェクトについて(海士町) ③島ま

て(海士町) ④鳥取県立境港総合技術高等学校について(鳥取県境港市)、島前教育魅力化プロジェ

8年で生徒数倍増

今、少子化が急速に進み全国各地で学校の統廃合が進んでいます。そのようななか、離島で廃校の危機にあった島根県立隠岐島前高校が8年で全

生徒数を2倍へと増加させました。

隠岐島前高校は日本海に浮かぶ隠岐の島諸島の「中ノ島」の海士町にあり、境港から船で3時間半、高速船でも2時間弱かかる場所です。海士町の人口は1970年にピークを迎え7000人に達す

るも、その後は減少し2010年には2400人を切るまでに。これまでの島前地域では、中学を卒業すると約半数の生徒が島を離れ本土の高校に進学。同時に少子化が進むことで生徒が減り教員の数も減っていったそうです。隠岐島前高校を失うことは、島の子ども達が中学卒業と同時に島を離れなくてはならなくなり、島から15歳から18歳の若者がいなくなることにつながります。

そこで、平成20年に海士町を中心とした島前3町村が協議し、「島前高校生徒の学力向上」と「島前地域全体の教育力向上」を目指した「隠岐島前教育魅力化プロジェクト」をスタートさせました。同プロジェクトは主に、全国から入学者を募る島留学制度と島留学生を支援する島親制度や、「グローバル(*)人材の育成」といった島前高校と連携し共通した目標を掲げる公営塾「隠岐国学習センター」を設立させ、教育魅力化に向けた離島の挑戦が始まりました。

また、場合によっては子どもの進学にあわせて家族全員が島を離れてしまふことなども懸念され、島前3町村(西ノ島町・海士町・知夫村)にとつて計り知れない損失になります。

続きは次回号に続編として掲載させて頂きます。 (*)グローバルとは、グローバルとローカルの造語。世界的な視野と地域からの視点で様々な問題を捉えようとする考え方を



これまでに地域活動
・寒川町PTA連絡協議会会長 ・町立寒川小学校PTA会長
・寒川町商工会理事 ・一般社団法人寒川町観光協会理事
・社団法人茅ヶ崎青年会議所第36代理事長 ・茅ヶ崎警察署協議会会長

山本 哲事務所

寒川町岡田279-2F ☎0467-84-7551
<http://tetsu-yamamoto.com>

離島の挑戦始まる